

日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞（体力科学）：

地域在住高齢者の客観的評価による座位行動および強度別身体活動と 認知機能の関連：Isotemporal Substitution モデルを用いた検討

永田 康喜¹, 藤井 悠也^{2,3}, 薛 載勳⁴, 門間 貴史⁵, 大藏 倫博^{4,5}

¹筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群パブリックヘルス学位プログラム,

²筑波大学人間総合科学研究科体育科学専攻, ³日本学術振興会,

⁴テラーメイドQOLプログラム開発研究センター, ⁵筑波大学体育系

学会賞（JPFMSM）：

Effects of exhaustive high-intensity intermittent exercise on serum parathyroid hormone

Jun Hamano¹, Takayuki Shimizu¹, Katsunori Tsuji¹, Wendy M Kohrt² and Izumi Tabata^{1,2}

¹Faculty of Sport and Health Science, Ritsumeikan University,

²Division of Geriatric Medicine, Department of Medicine, University of Colorado Anschutz Medical Campus

奨励賞：

Validity of Japanese version of a two-item 60-minute moderate-to-vigorous physical activity screening tool for compliance with WHO physical activity recommendations

Akira Kyan^{1,2}, Shigeho Tanaka^{3,4}, Minoru Takakura², Timothy Olds⁵,
Natasha Schranz⁵ and Chiaki Tanaka⁶

¹Department of Childhood Education, Okinawa Women's Junior College,

²Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, ³Faculty of Nutrition, Kagawa Nutrition University,

⁴Department of Nutrition and Metabolism, National Institute of Health and Nutrition, National Institutes of Biomedical
Innovation, Health and Nutrition,

⁵School of Health Sciences, University of South Australia, Australia Alliance for Research in Exercise Nutrition and Activity
(ARENA), Sansom Institute,

⁶College of Health and Welfare, J. F. Oberlin University

第35回日本体力医学会学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 前田 清 司

学会賞を受賞されました先生方におかれましては、誠におめでとうございます。さて、日本体力医学会学会賞は、毎年、「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」に公表された論文の中から、学会賞と奨励賞に相応しい論文を選定しております。今回は、昨年に「体力科学」と「JPFMSM」に公表された論文からそれぞれ高い評価を受けた論文一編ずつが学会賞、若手学会員が筆頭著者の論文の中から高い評価を得た一編が奨励賞として選定されました。いずれの論文も学会賞選考委員から非常に高い評価を受けた論文になります。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、第77回日本体力医学会大会（栃木大会）はオンライン開催となりました。このことを受け、今回の受賞論文の表彰および講演は、来年の日本体力医学会特別大会（東京）にて行われる予定です。特別大会では、第33～36回日本体力医学会学会賞の表彰と講演を行う予定であり、これまでにない盛大な表彰式になることが期待されます。

日本体力医学会は、国内外における体力ならびにスポーツ医科学の研究の進歩、発展を促進させる使命を担っています。このことを実現する上で、学会機関誌である「体力科学」と「JPFMSM」は重要な役割を果たしています。学会員の先生方におかれましては、先生方の素晴らしい研究成果を「体力科学」あるいは「JPFMSM」に積極的にご投稿いただき、国内外の体力ならびにスポーツ医科学の研究の推進・発展に寄与いただければ幸いです。学会員の先生方にとって、本学会賞が憧れとなり続けることを祈念いたします。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2022年5月）議事録

日 時：2022年5月20日（金）午後5時30分～7時15分

場 所：ZoomによるWeb会議

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

碓井外幸、西平賀昭各副理事長、

武政 徹常務理事、

赤間高雄、井福裕俊、太田 真、大野 誠、

後藤勝正、小山勝弘、下光輝一、新開省二、

須田和裕、須永美歌子、竹森 重、田中喜代次、

中里浩一、永富良一、成田和穂、前田清司、

宮内 卓、宮川俊平、和気秀文各理事、

井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、

小橋 元第77回大会長、

松山郁夫第78回大会長、

山津幸司第78回大会事務局

欠席者：栗原 敏、浜岡隆文各理事、小林康孝監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 令和4年度決算見込みについて（宮川財務委員長）

資料に基づき、令和4年度決算見込みについて報告された。収入70,686,196円は見込みであるが、予定通りの収入となれば、令和4年度決算見込の収支差額は、317,687円の赤字となる旨、説明された。

3. 令和5年度予算案について（宮川財務委員長）

資料に基づき、令和5年度予算案について報告された。令和5年度予算案の収支差額は、3,825,500円の赤字予定であるが、これは会費自動引き落としシステムの導入による初期費用等が含まれるための赤字である旨、説明があった。また、会費収入が想定より増えれば、赤字は縮小することが見込まれる旨、加えられた。

4. 令和5年度事業計画案について（鈴木理事長）

資料に基づき、令和5年度事業計画案についての報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 第35回日本体力医学会賞選考委員会審議結果について（前田学会賞選考委員長）

資料に基づき、4月11日にZoomによるWeb会議での審議にて開催された学会賞選考委員会において、学会賞【体力科学】、学会賞【JPFMS】および【奨励賞】候補の3件を選考したことが報告され、承認された。

【学会賞（体力科学）】

70巻-2号-②（体力科学）

永田康喜、藤井悠也、薛 載勲、門間貴史、大藏倫博
地域在住高齢者の客観的評価による座位行動および強度別身体活動と認知機能の関連：Isotemporal Substitutionモデルを用いた検討

【学会賞（JPFMS）】

10巻-3号-1

Jun Hamano, Takayuki Shimizu, Katsunori Tsuji, Wendy M Kohrt and Izumi Tabata

Effects of exhaustive high-intensity intermittent exercise on serum parathyroid hormone

【奨励賞】

10巻-2号-5（JPFMS）

Akira Kyan, Shigeo Tanaka, Minoru Takakura, Timothy Olds, Natasha Schranz and Chiaki Tanaka
Validity of Japanese version of a two-item 60-minute moderate-to-vigorous physical activity screening tool for compliance with WHO physical activity recommendations

尚、例年の年次学会大会時に“日本体力医学会学会賞受賞論文表彰および講演”が企画されているが、今年度の第77回（栃木）大会にて、前年度及び前々年度の受賞者を含め、各受賞者7分間枠での学会賞受賞論文表彰および講演を行うこととなった。また、学会賞選考委員会の委員から、学会賞の選考は、論文の他、業績も考慮すべきである旨、意見があったことが報告された。

6. その他

1) ヘルスケア社会実装基盤整備事業の件について（田中理事）

田中理事より、令和4年度AMED「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケア社会実装基盤整備事業）」について、4月8日に当学会と他学会との意見交換会を行ったことが報告された。本プロジェクトについて検討したが、担当者の負担が多いことから、今回は当学会としての主となる申請を控えることが提案され、承認された。

2) 日本高血圧学会からの「デジタル技術の血圧低下作用に関する指針」作成におけるリエゾン委員の推薦について（鈴木理事長）

5月17日にメール連絡で募った、日本高血圧学会からの「デジタル技術の血圧低下作用に関する指針」作成における、当学会からの「リエゾン委員」の推薦依頼をしたところ、井上監事が本委員への担当を希望したい旨、連絡があった。審議の結果、当学会から井上監事を推薦することが承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

(1) 「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況
<投稿状況>(2021年9月1日～2022年4月25日)
「JPFMS」誌：新規投稿47編

(内海外6編、特集号9編を含む)

※前年同期間：新規投稿32編（内海外6編）

4/25現在、審査中8編（採択17編、不採択21編、採択後掲載撤回1編）

「体力科学」誌：新規投稿34編（特集号5編含む）

※前年同期間：新規投稿32編

4/25現在、審査中8編（採択14編、不採択12編）

<発行予定>

「JPFSM」誌

○Vol. 11, No. 3（2022年5月25日発行）

掲載論文9編（特集号）

○Vol. 11, No. 4（2022年7月25日発行）

掲載論文7編

○Vol. 11, No. 5（2022年9月25日発行）

4/25現在、掲載論文1編

「体力科学」誌

○Vol. 71, No. 3（2022年6月1日発行）

掲載論文5編（特集号）

○Vol. 71, No. 4（2022年8月1日発行）

掲載論文6編

(2) 2022.3.24 J-STAGEプレプリントサーバ「Jxiv（ジェイカイブ）」運用開始。

4/1「体力科学」の投稿規定改定。

VI. プレプリント

本誌では、投稿前または投稿時に著者がプレプリントサーバ（JSTの運営するJxivのみ：<https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv>）へ原稿を投稿することを認める。この方針は、一次研究を記述した原稿の初版にのみ適用される。査読者のコメントを受けて修正された原稿、掲載受理（アクセプト）された原稿および本誌に掲載された原稿は、Jxivに投稿してはならない。Jxivに投稿した原稿を本誌へ投稿する際は、その旨を記載するとともにdoiを明記する必要がある。

また、Jxivに投稿した原稿が本誌に掲載された場合、著者はプレプリントを更新して本誌に掲載・公開された論文へのリンクを記載する必要がある。なお、Jxivに投稿された原稿の著作権は、著者が保持するものとする。なお本誌では、Jxivなどプレプリントサーバに掲載された原稿を引用文献に加えることは原則的に認めない。

(3) その他

・科学技術振興機構（JST）

「JSTが新たに立ち上げるプレプリントサーバ「Jxiv説明会」（オンライン）2022年3月17日（木）

・科学技術振興機構（JST）

「J-STAGE Data説明会」（オンライン）

2022年4月20日（水）

2) 学術委員会

(1) スポーツ医学研修会委員会

（中里スポーツ医学研修会委員長）

新型コロナウイルス感染拡大により昨年度は中止したが、現在、各種学会大会が現地で開催していることから、来年度のスポーツ医学研修会は実施する旨、報告があった。

3) 渉外委員会（永富渉外委員長）

国内外における各大会の開催進捗状況が報告された。

4) 倫理委員会（成田倫理委員長）

演題応募における倫理的手続きについて、第77回（栃木）大会の一般演題の演者にアンケート調査を行う予定であることが報告された。

2. 第77回（栃木）大会の進捗状況（小橋第77回大会長）

資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会 期：2022年9月21日（水）～23日（金）

会 場：栃木県総合文化センター

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現時点での参加登録者数及び演題登録数が、例年より減少していることから、赤字決算になる見込みであることが説明された。このことから、特別補助金として1,200万円の追加の要望があったが、従来から学会大会補助金予算を200万円としていることと、各理事・監事からの意見により、この特別補助金の追加は非承認となった。これについて、参加者と演題登録者を増やすため、学会員への一斉メールでの参加の呼びかけや、理事・監事から、参加のお願いの呼びかけをすることとなった。また、永富理事から、今後、感染症や災害等による影響で、大会の開催が危ぶまれる可能性を想定し、その対策案と危機管理を学会で考えていくことが提案された。

3. 第78回（佐賀）大会の進捗状況（松山第78回大会長）

松山大会長より挨拶がなされ、大会の準備状況について報告された。

4. その他

1) 日本体力医学会2023年東京シンポジウムについて（前田実行委員長）

前田実行委員長より、日本体力医学会2023年東京シンポジウムの進捗状況が報告された。

2) 会費自動引き落としシステムについて（事務局）

資料に基づき、会費の自動引き落としシステム導入の進捗状況と、学会員への案内文等を作成している旨、報告があった。

編 集 後 記

二つの目的があり、8月下旬に少し遅めの夏季休暇を利用して、まだ蒸し暑さの残る宮城県に行ってきました。

東日本大震災から11年。震災直後は、被災者がエコノミークラス症候群などにより健康面での二次被害にあうことをいかに予防するかが重要な課題でした。当時の私は、毎月のように石巻市、塩釜市、七ヶ浜町、山元町などの宮城県沿岸地域に赴き、被災地でも実践可能な運動の普及活動を支援していました。本来であれば、震災後10年の2021年が一つの区切りとなるはずだったのですが、COVID-19感染拡大のためにそのような催しに参加することも叶わず精神的にも区切りがつけられないまま今日に至っていました。

被災地の復興状況を自らの目で確認し、これらの地域との新たな接し方を模索することが一つめの目的でした。現地へ赴いて感じたことは、未来を見据えた前向きな視点がある一方で、決して忘れてはいけない震災事象と教訓を後世に伝え継ぐという強い意志でした。震災遺構である門脇小学校は命を守るための避難行動や日頃からの訓練の重要性をしっかりと伝えていきます。一方、その遺構に隣接して建設された復興記念公園の敷地内には、ここで多くの人命が失われたとは想像もできないほど綺麗に整備された真新しい丘があり、震災遺構と丘の対比が印象的な風景を作り出していました。

二つめの目的は、当時ご自身も被災されながら、よそ者の私を暖かく迎え入れ、被災地における健康支援のあり方を丁寧に教えてくださった地元の大学教員と3年ぶりの再会を果たすことでした。その先生からは「健康支

援を突き詰めれば被災地支援にも通じる」ことを教えられました。否、教えられたのではなく、その背中から感じ取ったというべきでしょうか。当時の私は、表面的な聞き心地がよいだけの言葉では決して打ち解けられない被災者との関係づくりの難しさに忸怩たる思いに苛まれていましたが、その先生はすっと被災者の心に溶け込むように寄り添い、魂と魂が手を取り合っているような健康支援(運動指導)をされるのです。私がどんなに頑張っても近づけないセンスの持ち主です。夜は感染対策を万全にしつつ、健康支援談議に花を咲かせました。

かねてからの念願を果たした私は、大満足で帰途に就こうとしていました。その時飛び込んできたニュースが「仙台育英高校が東北勢として甲子園初優勝」。11年前には誰も想像できなかった夢が関係者の努力により結実した瞬間でした。いつの間にか仙台駅前は大勢の人だかりとなっていました。

今回の優勝に少しはスポーツ科学の貢献があったかもしれないなと思ったとき、季節にそぐわない清々しい風が通り抜けていったような気がしました。

今後も本誌が時代の要請に強く応えますます価値ある学術誌となるよう、編集委員の一人として微力ながら尽力いたします。会員の皆様には貴重な知見の発表の場として『体力科学』にご投稿いただけますようお願い申し上げます。

大 藏 倫 博

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.71, No.5

体 力 科 学 第71巻第5号

令和4年9月25日 印刷
令和4年10月1日 発行

編集兼発行者
発行所

後 藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

編集事務局

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社
